

平成20年度 第4回 渡子小学校校内研修(道徳教育)

- ◆ 日時 平成20年7月8日(火)13:40～16:30
- ◆ 場所 渡子小学校1・2年生教室
- ◆ 参加者 渡子小学校教職員

1 授業公開(13:40～14:25)

主題名	みんななかよし	2-(3)信頼・友情		
資料名	「なかなおり」	(出典:大阪書籍)		
学習者	第1・2学年	1学年 女子3名	計3名	
		2学年 男子1名 女子1名	計2名	合計5名



◆授業の概要

- 導入……「ぼくときみ」を歌い、明るい雰囲気をつくる。
- 資料提示…挿絵や短冊を掲示しながら、「なかなおり」の話を把握させる。
- 展開前段…もんとぶうきちの二人はどんなことをしているでしょう。
学校の帰り道、前を歩いているもんたを見つけたぶうきちはどんなことを思ったでしょう。(主要発問)
にっこり笑った時、ぶうきちはどんなことを思ったでしょう。
- 展開後段…友達とけんかをして、なかなおりした体験について話し合う。
- 終末……教師の話聞く。

◆ 協議会

講師—呉市教育委員会 指導主事 神笠雅司 先生
協議の柱——・価値の類型化について。

・道徳の時間と体験活動との効果的な
かかわらせ方について。

- どの場面で中心発問をするかにより、子どもの発言内容が違ってくる。今日の中心発問では、みんなが「あやまる」になった。その時に教師が反対意見を言ってゆさぶったのはよい。また、全員が「あやまる」と判断すると考えられる場合には、「あやまる」の理由における価値の高さで整理していく方法もある。
- 役割演技では、主人公になりきらせることが必要。今日の授業の場合、教師の一言により子ども達はなりきることができた。
- 価値の類型化は、話し合いを深めるために行うものである。類型化の特性は、子どもの価値



観の個人差を生かしたり, 自分の価値観を自覚することで;ある。

○ 類型化の視点として, 次の3点。

- ① 価値に対して対置的に整理・・・教える, 教えない, どうしたらよいかわからないなどの価値に対する肯定・否定。
- ② その中間(迷い)の考え方や行為をもとに整理する観点。
- ③ 価値に対して, 序列的に整理・・・価値の尊さに対する受け止め方の高低, 自律や他律の程度などをもとに整理する観点。

○ 話し合いを深めるための「ゆさぶり(切り返し)発問」の例として, 次の6点。

- ① 発言の根拠を確かめる。
- ② 問題意識を引き出す。
- ③ 本音を引き出す。
- ④ 価値観を高める。
- ⑤ 結果を吟味して直す。
- ⑥ 別の立場になって吟味し直す。

○ 道徳の時間と体験活動との効果的なかわらせ方について。

- ① 体験を生かした道徳の授業
 - ・共通の知識や体験のもとで, ねらいとする道徳的価値と自分とのかかわりでとらえ, 自分自身と結びつけながら考えることができる。
 - ・教科や体験活動で高まった価値観を, 意図的に道徳の時間によってより高めていく。
- ② 体験活動を生かした道徳の時間の授業展開
 - ・体験を補助資料として活用する。(作文や日記, 活動場面の提示, 保護者の感想)
 - ・各教科, 特別活動及び総合的な学習の時間との関連
(共通の知識, 体験を道徳の時間に活用する)
 - ・体験を資料化する。
 - ・体験的な活動を道徳の時間へ取り入れる。
(模擬体験—車椅子・アイマスク, 表現活動—役割演技, 動作化)
- ③ 道徳の時間を教科や体験活動等に生かしていく。
 - ・道徳の時間で高めた道徳的価値の実践の場として活用する。